

裂せしむること、共同戦線を破壊すること等、於て、民衆黨、農民黨の指導者と全然一致するものである。

労働黨よりの三團體の除外は、労働黨をして農民黨、民衆黨と同性質の小ブルジョア的政党内に轉化せしめる、このために行はれたのであつて、斯かる意圖の下に主張された三團體排斥を承認して、然も農民黨と抗争せんとせられたことは農民組合の大なる誤りであつた。

見よ！三團體排斥に關しては實に勇敢に、而して具體的な決議を採用した中央委員会は、農民黨排斥に關しては僅に抽象的な一片の決議を採用したに止まり、然も其の決議が具體的な行動を伴つて居らぬこの實證された今日に於ては、單なる空文として存在する以上の何等の價をも有して居らぬではないか。

斯くて農民組合は一方に於て、無産者階級の聲援がぶれる農民同盟、農民黨に對する闘争を行ひつゝ、ついに自ら反動黨部にひきつられて、黨をして非無産階級的方向に連はしむることに對しての承認を一時低減せしめられたに至つたのである。

無産階級黨より小ブルジョア黨への轉化

せねばならぬに概らず、故意に枚数を守り、其の存在を隠し、戦野の中に承認を賜へたことは有産階級が労働黨を如何なる方向に連はしめんとするかを物語るものである。

三、無産階級の政治闘争を行はぬこと
先し述べてある無産階級の政治闘争（議會解散請願運動、小作法組合法に關する運動等々）に就いては何等の決定をもなす亦其の後に於て積極的になして居らぬことは、大衆的政治闘争を許さず、指導すべき無産者黨としての使命を自ら放棄し、單なる議會黨選舉黨になり終らんとしつゝ、あることを證明するものである。

文配階級の政策と右翼の政策

労働黨の斯うな、第三回中央委員會に於ける決定は、支配階級に依る無産階級運動の分裂政策に功を奏せしめたものであつた。
第一次農民黨に於ける總同盟の結成問題に於ける脱退は、政府をして疾風迅雷的に結黨禁止命令を發せしめる結果を生んだ。即ちそれは政府が無産階級陣営内部の不統一、従つて、結黨禁止に對する猛烈な大衆的反抗運動を起し得る形勢を看取した結果なのであ

第三回労働黨中央委員會の決定は、何故、黨をブルジョア左黨へ轉化、變質せしむることになると云ふのか。其の理由は凡そ次の如くである。

一、三無産團體の排斥

その理由は、黨の基礎を確立するまでと云ふのであるが、現在既に全國に組織されてある本部の大部分がこれら三團體の参加によつて組織されて居り、従つて三團體の排除は既設の黨支部の大部分を否認するといふが如き結果を生むのである。而して斯く大きな犠牲を拂つてまでも、三團體を排除した真意は、所謂強硬派からブルジョア階級によつて黨の基礎を確立し、黨を無産階級からブルジョア左黨へ轉化せしめるがためであつて、それは例へば民衆黨に對する態度及無産階級政治運動に關する態度に現れて居る。

斯くて黨の基礎が確立されて三團體の復歸が實現されればはかりでなく、小ブルジョアの指導精神に服従せぬ階級政治運動分子は次から次へ黨外へ放逐されるであらうことは云ふまでもない。

二、民衆黨に對する流弊

第一、無産階級の黨外へ放逐して、無産階級の労働黨に對抗して組織された小ブルジョアの民衆黨に對しては決して闘争を開始しなかつた。

然しながら其の後、全階級統一無産者黨組織の大衆的理論と彼等の結果、無産階級の再組織運動が起り、其れが成立に對しては、政府も再度の禁止をなし得なかつた。

然るに今、我が忠實なる労働運動内部に於けるブルジョアの代理人は、支配階級の無産者黨に對する恐怖を、黨をブルジョア化する

ことによつて、取除いたのである。
政府の強硬政策に對しては味方の陣營を統一し、彼等の態度に對しては各階級大衆を動員し、刀強い反抗運動を起す用意と準備とを調へることによつて、供へねばならぬのであつた。

然るに黨中央委員會は斯かる決意と、準備の代りに、支配階級の前に屈したのである。
中央委員會をして斯かる決定をなさしむるために右翼幹部が如何に努力したかは、諸等の既に述べたと同様である。

我が評議會の労働黨に對する態度

昨年六月、日本農民組合に依つて、大衆的統一無産者黨組織の準備運動が提唱せられるや、評議會は最も積極的の運動を支持し、